「マジョリカのばら」
1936年、油彩・カンバス
53・0㌢×45・5㌢

仲田好江（1902～95年）

仲田好江（本名菊代）の画歴は興味深い。兵庫県芦屋ですごした高等女学校時代に、ちょうど近くに住む小出楢重に入門、1927年に上京して彫刻家仲田定之助と結婚、また安井曽太郎に師事しました。以来、安井たちが中心となった一水会に出品をつづけました。

小出、安井といった、ヨーロッパ絵画とは別の方向で日本の近代絵画を築こうとした画家に師事したことはとても貴重です。とはいえ、仲田の作品には、二人の師にある独特の強引さはありません。とても素直な感覚で、アンティームな（親密な）という形容がぴったりする、水彩画のような淡い色彩と温和な表現につつまれた静物画や室内画を残しています。

この作品は、ちょうど安井にしたがって一水会に出品しはじめた時期の画家にとっても思い出深い作品で、仲田と親交のあった大川栄二が、画家から贈られたのです。

（田中淳）

〈名画の扉〉 大川美術館企画展から